

- 市町名 大河原町
- 学校名 大河原町立大河原小学校
- 期 日 令和3年10月4日(月)
- 内 容 理科実験教室
- 講 師 岡崎 雄博 氏
- 補 助 山本 玲 氏(コーディネーター)
今野 貞子 氏(教育活動推進員)
森 貢喜 氏()
阿部 康子 氏()
- 対 象 大河原町立大河原小学校
1学年～3学年

○大河原小学校放課後子供教室
「ほうかご寺子屋」とは

大河原小学校放課後子供教室「ほうかご寺子屋」は、幅広い年代の大人や異なる年代の児童と交流や学習を通して、子供たちにとって新しい学びや気づきを創出することを目的に設置しています。

学校を退職された先生や地域の方々3名が教育活動推進員として常時付き添い、子供たちの活動を見守り、ともに活動します。また、大学生の数名が補助役として活動に参加し、子供たちの活動をサポートします。

勉強の日は宿題や自主学習を通して、学びを深め、年に数回ある体験活動の日は、仙台大学の学生や学校の異なる友達と遊びます。「理科実験教室」のような特別教室等交流の機会も多様です。

定 員 34名
対象学年 1学年～3学年まで



様々な実験を披露してくれた岡崎講師

○児童の声

- ～金属パイプを使った実験を見て～
勝手にパイプから音が出るのが本当に楽しかった。
- ～風船を使った実験を見て～
風船を膨らませて「バーンッ」と鳴ったのが楽しかった。 【1学年男子】

理科実験を見たとき、「どうやったんだろう」と思いながら見ていました。

パイプに火を通すと音が鳴るなんて思っていませんでした。

風船を尖った棒で焼き鳥みたいに刺して割れないなんて本当にすごいです。 【3学年女子】

ふしぎだと思いう実験が続いて意味を説明されてもむずかしい言葉が続いてよく分かりませんでした。 【3学年男子】



不思議！？鉄のパイプから音がでてきた！

鉄のパイプに火を入れて下にすると音が出るのがすごいなと思いました。

ペットボトルに風船を付けて膨らませて手を離しても空気が抜けないのがすごいなと思いました。
【3学年女子】

見たこともない実験が見られて良かったです。理科が嫌いだけど楽しくなって好きになりました。一番すごいのは火をパイプに入れて鳴く実験です。
【3学年女子】

※鉄パイプを加熱し、膨張させることにより「ぷお〜」と音を出す実験がことのほか印象に残ったようです。



○講師から

理科実験というと、特殊な薬品や器具を使って行うものと思いがちですが、身の回りにも魔法のような現象を再現することが出来ます。

「何故そうなるのか」を説明するのは、学年や現象により難しいですが、いずれ授業の中に出てくるものが多いです。今回の理科実験で驚いたこと、不思議に思ったことについて、「これ見たことある！」と記憶に残ってくれていると嬉しいです。

(講師 岡崎 雄博 氏)



○社会教育指導員から

普段は前半に宿題や自主学習を行い、後半はゲームや折り紙などの自由時間にしています。

特別な活動として、各学期に1回、後半にMAP活動や理科実験などを取り入れた特別教室を設定し、児童の健全育成を図っています。

今回は「理科実験教室」の日であり、驚きの瞬間や疑問の眼差しなど、児童の生き生きとした表情が見られました。コロナの感染拡大防止に係る対策のため、児童の「やってみたい」という活動の要望が叶えられなかったことが残念でした。



○教育事務所から

大河原小学校放課後子供教室では、年に一度、「科学の不思議」について知る貴重な時間があります。児童へも、理科の実験に興味・関心を持たせるための機会となっているようです。

児童が岡崎講師の実験に目を輝かせながら参加している姿が印象的でした。

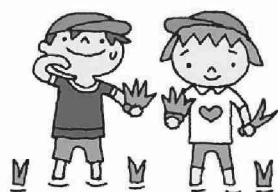
(文責：大河原教育事務所生涯学習担当)

○期 日 令和3年10月27日(水)

○対 象 村田町立村田第二小学校
第3学年

○目 的

地域社会の現状と実態に基づき、学校教育全体をとおして、郷土愛を育み、新しいふるさと創りを目指す児童の育成を図る。



○講 師

沼辺笑楽寿来(ぬまべしょうがくじゆく)

代表 渡辺 安光 氏

○補 助

沼辺笑楽寿来(ぬまべしょうがくじゆく)

渡辺せつ子 氏

高原 幸子 氏

高橋 一雄 氏

我妻 廣哉 氏

鈴木 徹 氏

吉野 正子 氏

増田百合子 氏



○児童の声

竹馬でバックしたら、「うまくできているね」といわれてうれしかったです。

昔は、各家庭で必ずニワトリを飼っていたのは、なぜなのかと気になっていたけど、理由を聞いてなるほどと思いました。おじいちゃんの家にも鳥小屋があるのも納得できました。昔は、学校が木造であったことは、知っていたけど、チャイムは、放送ではなく鐘だったのだと分かりました。

日下 来春



今日は昔の遊びについて、いろいろなことを教えてもらいました。昔のお米の値段を量るのはすごいなと思いました。鉄のはかりはとても重かったです。

もっと他の道具について聞いてみたかったですが、昔の生活について知れてよかったです。

奥野 優香

私の知らない昔の道具や、実際のものを見たこともなかったので驚きました。重かったり、軽かったりしていて、お米を量る道具には様々な大きさがあることが分かりました。

櫻井 南那

竹馬はとても楽しいし、今の竹馬より昔の竹馬のほうがやりやすいと、思いました。紐をしかりつかまないと、転んだりするから、しかり掴まないとだめということが分かりました。

山家 優人

昔の機械がなかった頃は、手作業で何でもしているのが分かってよかったです。 山崎 志穂

竹馬は、最初は乗れなくて転んでいたけど、乗れた時は、嬉しかったです。また機会があれば遊んでみたいです。 赤間 大愛



○教職員の声

沼辺笑楽寿来の方々から、昔の道具や遊びを中心に教えていただきました。子供たちは、昔の生活の様子を知り、今の生活との違いを感じていました。また、昔の遊び体験では、とても楽しく活動することができました。ありがとうございました。 3学年担任 山崎静華

○社会福祉協議会担当職員の声

昔の遊びの一つ、缶馬を子供たちに体験してもらうために、1ヵ月以上前から工作に励む人。どうやら子供たちに分かりやすく伝えられるか、一生懸命文章を考える人。当日、子供たちは初めて見る昔の道具に興味津々の様子で、説明する沼辺笑楽寿来の皆さんの周りであっという間に集まる場面も見られました。

笑楽寿来の皆さんによる、手作りの缶馬も子供たちは楽しそうに体験していました。「通学路でこの子とはいつも会ってるんだよ。かわいいでしょ」などと子供たちについて嬉しそうに話し、子供だけではなく、大人にとっても元気の源になっています。今後も昔の方の知恵や大切な感覚を伝えていきながら、地域の子供も大人もお互いに見守り支え合い、地域づくりの一つとしてこの活動が継続していけたらと思っています。

村田町社会福祉協議会

沼辺笑楽寿来担当 加藤 千穂

○村田町社会教育指導員から

じゃがいもや稲の栽培、七夕飾り、柏餅作り、団子さし等、沼辺笑楽寿来の皆さんには、年間を通して学校教育の充実のためにご尽力いただいています。

今回は、昔の学校や暮らし、遊びをテーマにしたものでした。升や竿秤を使って米を量るなど、実演を交えてお話ししていました。一合から一斗までの様々な大きさの升は私も初めて見ました。児童は、米の摺り切りを体験しましたが、何度もやりたいようでした。

昔使っていた道具を持参していましたが、壊れたところをこの日のために修理するなど維持管理は大変なようです。子供たちのために出来る事はしっかりやるという姿に心打たれます。

今回も、子供たちと沼辺笑楽寿来の皆さんの素敵な笑顔がたくさん見せていただきました。

村田町教育委員会生涯学習課 社会教育指導員 佐藤 徳雄



○教育事務所から

沼辺笑楽寿来の渡辺代表は、児童が真剣に学びに向き合う姿を見ながらこう話してくれました。「私たちも子供たちから元気もらっていますから。いろいろ大変な世の中だけれど、お互いに笑顔で楽しく過ごせるといいね。」「会員らも年を重ねたが、子供たちのためだと思えば張り切っちゃうよね。」村田二小は、沼辺笑楽寿来の皆さんに、年間をとおして活動支援をいただいています。その功績が認められ、文部科学大臣表彰や宮城県功績表彰を受賞されました。

(文責：大河原教育事務所生涯学習担当)

柴田町立船岡小学校 「人と環境に優しい自動車」

○期 日 令和3年10月20日(水)

○対 象 柴田町立船岡小学校
第5学年88名

○講 師
トヨタカローラ宮城(株)地域貢献推進室
高橋氏、佐藤氏、大原氏

指導補助

総務室 板橋氏
サービス部 中村氏
営業企画室 上川名氏
IT営業推進部 菅原氏
アムシス柴田店 吉田氏

○内 容

第5学年「人と環境に優しい自動車」

- ・自動車の知識習得及び自動車製造工程の理解
- ・車両説明、現車見学

○児童の声

私は、自動駐車できる車に乗せてもらいました。中から見て2つのボタンを押すだけで駐車できるなんてすごいなあとと思いました。

福祉車の車椅子に乗ったまま乗れる車では、何もしないと重かったけれど、工夫されていて、ボタン1つで坂をゆるやかにできました。そのあと車いすを押してみたらスムーズにできました。このことから、お手伝いする人のためへの工夫もされているということを知りました。(斎藤由奈)



この授業で今は車のことだけではなくて、人や環境のことも考えて作られている車を自分の目で見ることができました。地球温暖化が進まないように願いを込めてつくられた自動車がすごいと思いました。自動駐車ができる車にも乗ることができました。手も足もはなしているのにしっかりと駐車した車を見て、早く免許をとってこんな自動車を運転したいと思いました。(桜井心結)

地球温暖化対策の一つ、カーボンニュートラルの取組として、1年間でたくさん自動車を捨てていたものを、今では、約99%リサイクルしていると聞いて、とても工夫しているんだなあと思いました。車イスの人が乗る車は、シートベルトを工夫してあり、介護している人も、介護されている人も安心できると思いました。コペンという車はドア以外プラスチックできていてとてもびっくりしました。上と後ろが合体して屋根が開いて驚きました。自動運転はいつか乗ってみたいと思うくらいすごかったです。(曳地香音)



トヨタカローラの授業を受けて、やっぱり印象的だったのは、環境に合わせて進化し続けてきた環境にやさしい自動車です。水素自動車や人にも優しい自動車を見て、環境を守る車を、日々開発していることが、一目で分かりました。ですが、一番大切なのは、私たち人類一人一人が、環境を守る取組をすることです。この授業を機会に、環境を守る取組を強化していきたいと思います。この環境に優しい自動車を通して、環境を守る大切さがわかったので良かったです。地球の未来を考えて、車を開発することは、とても大変だと思いますが、未来を信じがんばってください。

(門馬心陽)

屋外の授業で、車のいろいろなところをやさしくたたいて、音がちがうところを探すのがとてもおもしろかったし、ドアのところプラスチックで作られていることが分かりました。足が不自由な人向けに作られている車を見て、とても安全に作られていてすごいなと思いました。

教室での授業では、車の歴史を教えてもらい、未来の子供のために水素自動車にかえていることを学びました。最後に空を飛ぶ飛行機の話聞いて、私も乗ってみたいです。(天野星愛)

先日の授業でわたしが学んだことは、たくさんありますが、特に心に残っているのは人にやさしいウェルキャブ車についてです。足が不自由で車いすを使用している人が乗り降りしやすくするための工夫や、その車いすを押す人が押しやすくするために坂が少し低くなる工夫など、1つの車にたくさんの工夫がされていることが分かり、とても勉強になりました。燃料電池自動車は炊飯器やテレビが使えるようになっていることも初めて知ったので勉強になりました。(水戸なな)

○講師から

当日は風が強く、児童やお手伝い頂いた先生方、生涯学習課の皆さんも大変だったと思います。大変ありがとうございました。そんな天候の中でも児童は目を輝かせてこちらの話に興味を持って聞いてくれていました。このような授業を何回開催しても、「あそこはこうすれば良かった。」のような反省点が出て来ます。授業は難しいですね！時間の制約がなければ、自動駐車などは全員が乗車体験できれば良いのですが……。それでも、自動車自体に小学校5学年が興味を持ってくれる事が最大の目的なので、これからも授業の内容や進行など、当社のスキルアップをしていきます。ありがとうございました。

トヨタカローラ宮城株式会社
地域貢献推進室 主幹 高橋 浩 氏

○担当の先生から

これまで大衡工場には何度かお邪魔させていただき、自動車の製造工程について深く学ぶことができていたのですが、今年度はそれができないということで、子供たちの学びの部分で不安に感じていました。だからこそ、今回のような時間を作っていただき、とてもありがたかったです。大衡工場の見学の際は車の製造の面で深く知ることができたように思うのですが、今回は工場での実際の様子も説明していただいた上に、水素自動車や福祉車両、最先端の技術を用いた車両まで間近で見せていただいたことで、車に携わる人の努力や思いにまで触れて学ぶことができたように思います。教科書だけでは得ることができない、実感を伴った深い学びをすることができました。



○教育事務所から

船岡小学校5学年を対象にした「人と環境に優しい自動車」では、トヨタカローラ宮城株式会社の皆さんが、「ものづくり」「環境問題」「人づくり」「地域連携」等のキーワードを柱として、講義と実演をしてくださいました。児童は、スライドや資料による説明で知識を深め、現車に触れ、乗車することで自動車の仕組みや環境問題等への工夫点について学びました。また、車椅子のまま乗車できる福祉車両や積載車など普段見ることができない自動車にも触れることができました。児童はこの体験を通して、「ものづくり」「環境問題」「福祉」について深く考えることができました。

(文責：大河原教育事務所生涯学習担当)

○市町名 川崎町

○学校名 川崎町立川崎第二小学校

○期 日 令和4年1月19日（水）

○会 場 セントメリースキー場

○対 象 川崎町立川崎第二小学校

1学年6名

2学年8名

3学年8名

4学年6名



○児童の声

1年生と2年生がセントメリースキー場に行きました。はじめにそりで遊びました。スピードが出ました。とても速くておもしろかったです。

1年 相原 和瑞



○目 的 セントメリースキー場での雪遊びを通して冬の遊びを積極的に楽しむ意欲を高める。

スキーの初歩的な知識・技術を身に付け、冬のスポーツを積極的に行おうとする意欲を高める。

決まりや約束を守り、安全に行動しようとする態度を身に付ける。

そりや雪山で遊ぶのが楽しかったです。雪山では雪合戦をしました。友達にたくさんあてることができました。しかも雪山はつつるすべってすべり台のようでした。みんなで食べたハンバーグカレーもとてもおいしかったです。

2年 大宮 鈴南

○講 師 セントメリースキースクール

大山 養一 氏

鈴木 勝 氏

水原 洋一 氏

若森 にな 氏



○指導補助 学校支援ボランティア

坂田 政裕 氏

中山 剛 氏

丹野 みずき 氏

木ノ瀬 千晶 氏

木村 エスター氏

そり・スキー教室コーディネーター

栗野 繁 氏

1月19日のスキー教室では、にな先生や大山コーチのおかげでスキーがうまくなれました。練習をしているうちにだんだんと滑るのが楽しくなってきました。お昼のカレーもとてもおいしかったです。

3年 木村 咲菜

ぼくたちはスキー教室でいろいろなことを教わりました。1つ目は、ハの字ですべることです。2つ目は、大きなハの字で止まるということです。3つ目は、曲がり方です。曲がりたい方にゆっくり体を向けることを教わりました。次回は教わったことを思い出して滑りたいです。

3年 木皿 玲央

スキー教室では、坂田さんと中山さんに教わりました。グレンデにつくと雪はパウダーになっていて、そこにつっこんでしまって転びそうになったけど、体勢をうまく整えられました。後半には坂田さん中山さんに熱心に教えてもらって、少しうまくなりました。2回目はもっとうまくなりたいです。

4年 木村 瑞希



第1回スキー教室では、最初にムーンライトコースを滑りました。リフトに乗るときに緊張したけど、滑ってみたらすごく楽しかったです。次のコースではスキー板をハの字でしかすべれなかったの、二の字で滑れるようになりたいです。2回目のスキー教室もがんばります。

4年 中山 果南

○教職員の声

セントメリースキー場で行われたスキー教室では、インストラクターのみなさんから、安全に、楽しく滑る技術を教えていただきました。はじめてスキーを体験する児童も多かったのですが、丁寧に教えていただいたおかげで、とても上手に滑ることができました。3・4年生は2回目の教室もあります。ご指導よろしくお願ひします。

体育主任 小野 聡起

○講師から

教育委員会職員、スキースクールスタッフそしてスキー場との密接な関係を持つことから、コーディネーターとして打合せから入り準備してきました。当日は滑れる児童班は経験豊富なボランティアさんをお願いし、スキーインストラクターは初めてから初級の児童を学校の先生の補助を受けながら指導しました。年2回のスキー教室の1回目ということで、スキーに慣れる、スキーは楽しい！を目標に行いました。2回目ではレベルアップ、初心者にはリフトに乗って「滑れる！」「滑れた！」の成功体験を持ってもらえるよう実施したいと思います。全体をコントロールして安全に実施するのは難しいですが、やりがいのある仕事だと思います。

そり・スキー教室コーディネーター 栗野 繁



○教育事務所から

川崎町内の全小学校では、町内にあるセントメリースキー場を会場に、そり教室・スキー教室を実施しています。特に、今回紹介した川崎第二小学校は、学区内にあるスキー場ということもあり、児童にとって雪遊びやスキーはとても身近な存在であるように感じられました。「地域の財産を子供たちのために生かしたい」というボランティアの方々や協力的なスキー場スタッフの皆様の思いが、しっかりと児童に伝わっていました。

今後も、児童の思い出に残る楽しい活動として継続されるよう期待しております。

(文責：大河原教育事務所生涯学習担当)

○市町名 丸森町

○学校名 丸森町立大内小学校

○期 日 令和3年9月30日(木)

○会 場 丸森町大内小学校音楽室

○講 師

唄 小関 敬義 氏
尺八 笠間 文武 氏
三味線 梅津 登 氏
指導総括 富倉 守 氏
指導総括 菅野 憲一 氏

○対 象 丸森町立大内小学校3学年8名

○目 的

学校教育のカリキュラムの一環(ふるさと教育)と位置付ける。民謡の父といわれた「初代鈴木正夫」の生誕地として、その偉業を讃え、民謡の伝承活動を通じ、子供たちの郷土への誇りと愛着心を育て、民謡の保存継承と大内地区活性化の促進を図る。

○成果発表

学習発表会 : 令和3年10月23日(土)

閉校記念行事 : 令和4年2月26日(土)



○児童の声

・最初は歌えるか心配だったけど、歌えてよかったです。尺八、三味線の生演奏が聴けてうれしかったです。今度の木曜日にも上手に歌えるようにします。

・歌の高さや歌い方を教えてくれてありがとうございました。手のたたき方を教えてくれてありがとうございました。紙芝居を読んでくれてありがとうございました。声の大きさも教えてくれてありがとうございました。4人の先生にほめられたのがうれしかったです。

・先生方から、「上手に歌えたね」と言われてうれしかったです。分かったことは、「そうま〜こいしや〜」のところが工夫すると上手に歌えることです。こんなに上手に歌が歌えるなんて思っていませんでした。また次の木曜日にも上手に歌いたいです。

・楽器に合わせて歌えてうれしかったです。紙芝居も読んでくれて面白かったです。先生に教えてもらったから声の表現や流れが分かりました。学習発表会で新相馬節を成功させたいです。

・みんなで上手に歌えました。新相馬節を一人でも歌えるようになりたいです。楽器と一緒に歌えたのが良かったです。

・新相馬節の音程が分かりました。どういう楽器を使っているのか分かりました。長い時間、声を出せるのがすごかったです。最初より、歌がうまくなりました。新相馬節がどうやってできたか分かりました。実際の方がすごかったです。

・わたしは、9月30日に先生4人に新相馬節を習いました。最初に紙芝居を見て、鈴木正夫さんの一生がよく分かりました。思っていたよりも先生が厳しくてこの先はうまく歌えそうだなと思いました。生演奏を聴いて、CDと変わりないくらい上手でした。

・新相馬節の練習を初めて行い、前よりも歌がうまくなりました。4人の先生が来て、紙芝居を読んでくれてうれしかったし、楽しかったです。先生と練習したときよりもうまくなりました。

○講師から

今日の練習会の前に、教室で事前に練習をしていたので、かなり上手に歌えるようになっていたことが嬉しかったです。

自分たち講師も高齢化してきているので、どれだけ直接関わって生の演奏（三味線、尺八など）で指導できるか心配でした。しかし、一昨年、手本とカラオケの入ったCDを作成したことにより、学校内だけである程度練習できるという見通しを持つことができ安心しました。

新丸森小学校でも、「新相馬節」に関する活動を続けることができるという話を聞いて安心しました。今後も「新相馬節」を続けたいと思う気持ちが子供たちの中に育ってくればありがたいです。

○大内まちづくり協議会職員から

今年で10年目、その年その年でいろいろ特徴があったように思います。今年の子供たちは、先輩のCDを聞いてしっかり予習をしていたのだと思います。初日にして1番から3番までしっかりと歌い上げ、その学習能力に驚きました。また、上手に歌いたいという気持ちが伝わってくる素晴らしい歌声でした。

民謡は、「心のふるさと」といわれています。この「新相馬節」はふるさとを想い歌った哀愁歌です。地元が生んだ日本一の民謡歌手である鈴木正夫さんの名曲を、大内芸能祭り、敬老会、丸森芸能祭り等で、地元の子供たちが歌い継いでくれています。日本の伝統文化継承のためにも、頑張って歌い続けてほしいです。



○教職員の声

大内小学校では、3学年は「大内の自然と伝統を見つめよう」という学年テーマで総合的な学習の時間に取り組んでいます。活動目標は「さまざまな体験を通して、自分のまわりの人とふれあい、大内の自然や人々について考えることができる」としています。「新相馬節と大内地区のかかわりを調べ、分かったことを発表する」「地域の一員として地域の文化を継承しようとする意欲を高める」ことを目指して、取り組んでいます。1学期には、新相馬節についてパンフレットやインターネットを使って調べ、ポスターにまとめました。今回の民謡教室の後には、「尺八や三味線の生演奏を聴けてうれしかった。」「新相馬節を一人でも歌えるようになりたいです。」「声の表現や流れが分かった。」「

長い時間声を出せるのがすごかった。」「実際の方がすごかった。」「前よりも歌がうまくなりました。」などの感想がありました。「今度の木曜日にも上手に歌えるようにします。」「ほめられたのがうれしかった。」「学習発表会で新相馬節を成功させたいです。」など次の活動への意欲の向上につながっています。

例年は「大内芸能まつり」「敬老会」「新相馬節全国大会」で地区の方に披露してきましたがコロナ禍で2年間できていません。学習発表会が唯一の発表の機会となってしまいました。

大内小学校は閉校しますが、新丸森小学校でも学習を続け、大内地区に子供による民謡の歌声が引き継がれることを願っています。

○教育事務所から

大内地区、相馬市に居住する講師陣により、3学年児童8名が「新相馬節」を練習しました。担任の先生と少しずつ予習をしていた児童は、見事に歌い上げ、講師陣を驚かせました。児童は、今後も練習を重ね、学習発表会や閉校記念行事で成果発表を行います。まっすぐな目と凛とした姿が印象的でした。

(文責：大河原教育事務所生涯学習担当)